令和5年度第2回全国健康保険協会三重支部評議会議事概要（要旨）

1. 開催日時 令和5年10月27日(金曜日)
午前9時30分～午前11時00分
2. 開催場所 全国健康保険協会三重支部6階会議室
3. 出席評議員 薄井評議員、楠井評議員、黒澤評議員、高橋評議員（議長）、
真弓評議員、山川評議員
(五十音順)
4. 事務局 内藤支部長、保田部長、溝口部長、井上グループ長、
椿垣内グループ長、阪本グループ長、土田グループ長補佐、
金子主任
5. 議 事 (1) 令和6年度保険料率について
(2) 令和6年度三重支部事業計画及び保険者機能強化予算
の策定について

議題1. 令和6年度保険料率について

資料1に沿って事務局から説明。

《評議員からの主な意見》

【学識経験者】

保険料率 10%はやむを得ないと考えるが、高齢化と後期高齢者への支援金の増加予測等の積み立てが増えることに対する説明が必要と考える。変更時期については特段の事情がなければ例年通り3月分からの変更で異論はない。

また、協会けんぽの保険料収入のため、加入者を増やすべきと考える。立法論にはなるが、医師国保や弁護士国保等の協会けんぽと共通性や類似性を有する職域国保を取り込む立法政策を働きかけられないか。

【事業主代表】

加入者を増やすことが保険料収入の増加や安定につながるのか。加入者を増やすよい方法はないのか。

【事務局】

加入者が増えればその分医療費や給付が増える可能性もあり、一概に加入者が増えれば保険料収入によい影響があるというものでもない。給与の高い方が多く加入すればそれだけ保険料収入は増える構造となっている。ただし、今までの財政状況から判断すると、加入者が増えたとしても、医療費等の支出もあり、

そこまで大きな影響はなかった。

【被保険者代表】

保険料率 10%はやむを得ないが、今年度は全国的に最低賃金が引き上げとなる中で、少しは賃金を増やしている企業が多いと思う。今後も引き続き議論が必要である。

保険料率の変更時期について確認したいが、なぜ3月分の保険料から変更としているのか。1月や4月の保険料より変更してもよいのではないか。

【事務局】

3月分の保険料は翌月の4月に納付いただいている。年度が替わった時点で納める保険料が変更された方が加入者の皆様に分かりやすく、事業主の皆様にも昇給や異動等の給与計算のタイミングでもあり準備しやすいと考えている。このために3月分保険料より料率を変更している。

【議長】

それでは、他にご意見がなければ、令和6年度の保険料率につきまして、三重支部評議会の意見としては、平均保険料率10%を維持すべきという意見でよろしいか。また、保険料率の変更時期について、例年通り3月分(4月納付分)からの変更でよろしいか。

【一同】

異議なし。

【議長】

事務局においては令和6年度保険料率に関する三重支部評議会における意見を本部に報告いただきたい。

議題2. 令和6年度三重支部事業計画及び保険者機能強化予算の策定について
資料2に沿って事務局から説明。

《評議員からの主な意見》

【学識経験者】

私は、コロナ禍で主治医より運動と昼食における手作り弁当を勧められたが、宴会がなくなり、塩分摂取が減ったこともあり健康診断の数値は一気に改善し

た。運送業や建設業等の全体的に健診結果の数値の悪い業界団体に対し、ランチの食事の改善セミナーをされてはどうか。仕事柄やむを得ないと思うが、塩分摂取に気を付ける等の適切な食事を心がければ数値は改善するはず。必要であれば栄養士会にお願いして栄養指導セミナーの企画をしてみてもどうか。

また、来年から運送業と建設業は労働時間に対して規制が強化される。そして人手不足が考えられるが、そのしわ寄せが下請けにいく可能性もある。労働時間の制限により、健康状態が改善していくとはなかなか考え難い。時間外労働が多い方をどのように時間規制していくかとともに、労働者自身が自分の健康問題についてどのように考えてもらうかを検討していかなければいけない。タイムカードで労働時間をきちんと管理できている事業所はよいが、副業を許可している事業所はなかなか正確な労働時間までは計りにくい。そうすると、本来の規制時間を超えて働く人も出てきてしまい、健康状態に悪影響が出てくるのではないかと危惧している。

健診結果の入手と特定保健指導の向上のためにもインセンティブが必要と考える。国保では健診結果を送ると 500 円の金券がいただける。協賛企業を募集して割引券等を検討してはどうか。協賛企業を社会貢献活動企業として紹介することもできる。

【事務局】

食生活が乱れている方々に対し、栄養士会とも連携して不適切な食事の改善に取り組んでいきたい。また、健診結果の入手、特定保健指導の向上については様々なアプローチを検討していきたい。

【被保険者代表】

道路貨物運送業への取り組みはこのまま続けてほしい。運送業は勤務時間が長く、平日昼間はもちろん深夜休日も仕事をしており、病院を受診するタイミングがなかなかない。このためにやむなく時間外受診をしてしまっている方もいると思う。健診の結果が出ても病院を受診するタイミングがなく、自覚症状もないため、肥満や高血圧症の兆候があつたとしてもそのまま放置している方が大部分だと思う。従業員は事業所に対して健診結果を報告して、要検査であつたとしてもそのまま受診しない方も多い。やはり会社の社長や衛生管理者、健診の担当者が直接該当者に説明する、あるいは無理やり受診させないと病院へ行かない。セミナーやPR活動を行ってもなかなか前に進みにくいため、具体的な対応方法を示してもらえれば事業所も対応がしやすく、従業員の方に対する健康管理に繋がるのではないかと。

【事務局】

三重支部の道路貨物運送業は健康宣言の割合も支部平均と比べて高い。健康宣言の趣旨も徐々に理解が進んでいると感じている。また、健康経営優良法人を取得している事業所もあり、積極的に従業員の方の健康管理に関与し始めている。徐々に健康経営が広まっていると感じているため、まずは健康宣言に参加し、届いた健康情報や他の会社の好事例を参考に、自社の従業員の健康づくりへと繋げてほしい。

【被保険者代表】

企業も健康の部分をPRし、イメージをよくしていかなければ、新たに入社してくれる人がいなくなってしまう。従業員の健康に配慮する会社とPRすることで、従業員の家族は「従業員のことを気遣っているよい会社に勤めている」と感じ、健康に関心を持ってもらえるようになるのではないかと。

【学識経験者】

道路貨物運送業の方々に対する取り組みは継続していただきたい。

7ページの業態別の寄与度について確認をしたい。先ほどの説明では機械機器製造業や道路貨物運送業はもともと寄与度が高いとのことだが、下2桁の部分が年度により変動があるように感じる。他の業態ではそこまで大きな変動が見受けられないが、業態による特性等の特別な要因はあるのか。

【事務局】

現状、変動要因の分析まではできていない。被保険者数の少ない業態であれば、年度による大きな変動は考えられるが、機械機器製造業や道路貨物運送業は被保険者数も多く、特殊要因も考え難い。今後回答ができるように分析を進めていきたい。

以上